

優秀賞

友達からのやさしさ

福島県 玉井小学校 五年
喜古 真凜

「気にしないよ。」

このひとは、わたしをうれしい気持ちにしてくれる。

わたしは理由があって、学校でぼうしをかぶっている。友達からすれば、「気にしないよ」という言葉はふつうだと思うかもしれない。でも、わたしにとっては心が温くなる言葉なのだ。

わたしは、四年生の秋ごろからぼうしをかぶっている。突然のことで、みんなはおどろいたと思う。授業中も給食のときも、わたしはぼうしをかぶって過ごした。でも、だれもわたしをいじめることはしなかった。集合写真で一人だけぼうしをかぶっていたのも、みんなはいやだったかもしれない。

あるとき、わたしに合わせて、みんながぼうしをかぶってくれたことがあった。わたしは、うれしさで泣きそうになって、でも申しわけなくて……。いろんな気持ちが混ざっていた。「ありがとう」と言っても、そのひとは、わたしのこの気持ちを伝えきれそうにないと思うくらいだった。

五年生でクラスがえをした。少し不安だったけれど、何の心配もいらなかった。四年生のときと変わらず、みんなと同じように接してくれて、いじめられることはなかった。クラスの中に、ぼうしのことではなやんでいるとき、話を聞き、相談にのってくれる友達がいたことも、わたしが安心して過ごせた理由の一つだ。

そして、クラスや学年のみんなが、わたしを特別あつかいすることなく、ただふつうに、みんなと同じように接してくれたことも、もう一つの大きな理由だと思う。

わたしは気をつかわれるのが、あまり好きではない。だから、みんなが特別あつかいしないでいてくれることが、とてもうれしい。ぼうしをかぶっていても、ふつうに話し、ふつうに接してくれるから、毎日楽しく学校に行ける。クラスの友達も、学年の友達も、みんなわたしに同じように接してくれる。

「玉井小学校にこられてよかった。いい友達がたくさんいてよかった」。何度思ったことだろう。

この夏、プールに入るとき、わたしは思い切ってぼうしをとった。みんな、

「気にしないよ。」

と言ってくれた。それからわたしは、プールのときに、何も考えないで、安心してぼうしをとれるようになった。友達がなにげなく言ってくれたひとは、わたしにとっては、ぼうしをとる大きなきっかけになった、温かいひとは、わたしにとっては、

みんなのやさしさで、わたしは一年間楽しく過ごせそうだ。早くぼうしをとって、めいわくをかけないようにしたいな。卒業式までにぼうしをとって、楽しい学校生活を送れたという感謝の気持ちをみんなに伝えたい。

「みんな、ありがとう」

伝えきれるかな、この思い。